

研修参加報告書

平成29年 8月31日

会 派 名 江政クラブ
会派代表者 河合 正猛

(参加者：幅 章郎)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	平成 29 年 8 月 3 日 (木) ~ 4 日 (金)
研修時間	13 : 00~16 : 20 9 : 00~12 : 20
研修場所	全国市町村文化研修所 (J I A M)
研修内容	第 2 回市町村議会議員特別セミナー (講師：田中 滋氏、湯浅 誠氏、新田 國夫氏、浦野 愛氏)

②

年月日	平成 年 月 日 ()
研修時間	
研修場所	
研修内容	(講師：)

③

年月日	平成 年 月 日 ()
研修時間	
研修場所	
研修内容	(講師：)

研修参加報告書

①

年月日	平成 29 年 8 月 3 日 (木) ~4 日 (金)
研修時間	13:00~16:20 9:00~12:20
研修場所	全国市町村文化研修所 (J I A M)
研修内容	第 2 回市町村議会議員特別セミナー (講師: 田中 滋氏、湯浅 誠氏、新田 國夫氏、浦野 愛氏)
■目的 講演等で得た知識を市政へ活かしていくとともに、全国の議員との交流を通して情報交換等を図り、議員として研鑽を積むため。	
■内容 【講義 1】 2025 年に向けた医療介護総合確保政策 ～地域包括ケアシステムと地域医療構想～ 慶応義塾大学名誉教授 田中 滋氏 地域包括ケアシステムを有用に構築するためには 4 つの要素が必要である。 ①「尊厳」と「自立支援」を守る「予防」 ②中重度者を地域で支える仕組みの構築 ③サービス事業者の生産性の向上 ④市町村・保険者による地域マネジメント 社会参加し、地域とつながることで介護予防につなげる。 医療の他、栄養管理などを一体的に行うこと。 ヘルパーはもっと専門的な福祉業務に従事すること。 住民主体のシステム構築を図ること。 等を進めていくことが大切である。 【講義 2】 子どもの貧困対策 ～子どもの貧困の現実と対策～ 法政大学現代福祉学部 教授 湯浅 誠氏 現在の相対的貧困率は 13.9% (280 万人) 「相対的貧困率」が高いとはイコール「行き過ぎた格差」と言うことが出来、格差は「金がない」「繋がりが無い」「自信がない」など、「あきらめ」の心の蔓延を生む。 対策は	

- ①インフラ（お金、教育、住居、食事など）の整備
 - ②体験（遊び、社会とのつながりなど）の機会提供
 - ③時間（大人や子供同士、一緒に過ごす時間）の創出
 - ④トラブル対応（病気、けがなど）を図る
- 等を進めていくことが大切。

【講義 3】

認知症対策

～団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて～

医療法人社団 つくし会 理事長 新田 國夫氏

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

2025 年には約 700 万人（5 人に 1 人）に上ると言われる認知症高齢者

認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることが出来る社会づくり。

認知症高齢者にやさしい地域の実現には行政だけではなく地域住民が地域で主体的に役割を果たしていくことが大切。地域の繋がりは認知症高齢者にばかりではなく地域の再生にもつながる大切な取り組み。

【講義 4】

災害と福祉の連携～これまでの活動実践から～

認定特定非営利活動法人 キューストックヤード 常務理事 浦野 愛氏

災害発生後に避難所などで体調悪化や過労などの原因で死亡する災害関連死を減らすためには圧倒的なマンパワーが必要になる。

避難所での最低限の生活環境は

トイレが整っている

寝床が整っている

食事が整っている

自分でできることは自分でやれる環境がある

人の繋がりが絶たれない

医療・看護・福祉・行政との連携がある

それらの活動を支えるのは「人」であり、「繋がり」である。

■所感

4つの講義を通して共通して感じることは「地域づくり」「人と人の繋がり」が医療・介護・貧困・災害への取り組みの中で最も大切なことであるという点でした。我々の仕事は正に「地域づくり」であることを思う時、日ごろからの地域の皆さんとの関係づくりが原点であり、最も重要な取り組みであることを改めて感じました。